

フィールド調査

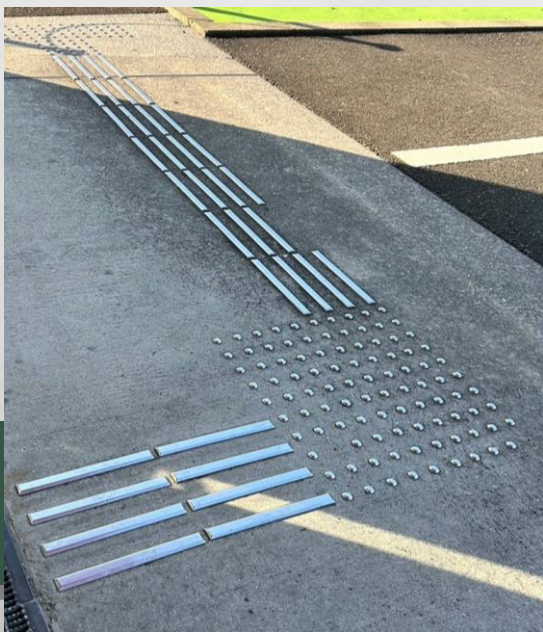
新鮮市場 きむら 太田本店

専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ

作業療法学科 2年生 5名



新鮮市場 きむら 太田本店 (入口)



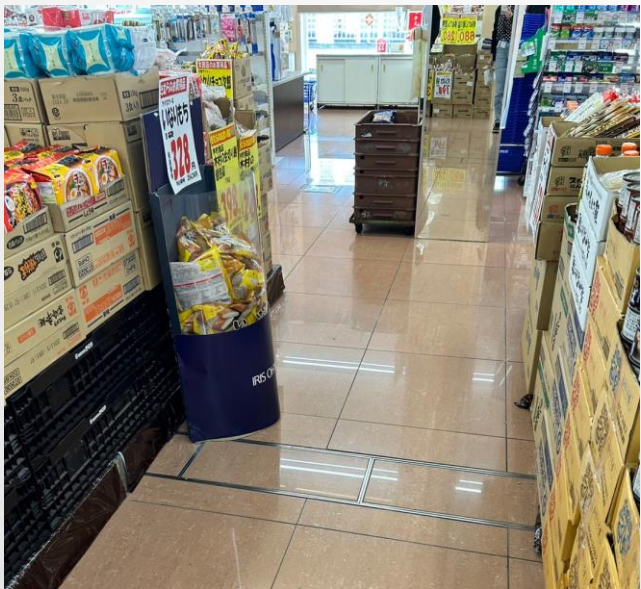
〈良いところ〉

- ・交通量が少ない
- ・道幅が広く舗装されている
- ・ゴミが落ちておらず障害物が少ない

〈改善点・注意点〉

- ・傾斜がある
- ・勾配が急で車椅子の自走では難しい
(介助者の負担も大きい)
- ・グレーチングにキャスターが入りやすい
→転倒に気をつけるよう指導する
- ・段差等でタイヤを擦ることが想定され、劣化やパンクに注意する
- ・カゴが高く積みされている時は車椅子からでは取りづらい

新鮮市場 きむら 太田本店 (店内)



<良いところ>

- ・車椅子1台と人1人がすれ違う幅はある
- ・廊下に段差がない
- ・レジ前や、広めの廊下では方向転換可能な幅がある

<改善点・注意点>

- ・足下にある商品は、車椅子からは取りづらい
- ・人によれば(身長など)、上段の商品が見えない、届かない事がある
- ・通路に置かれた商品が障害物となることもあり車椅子では通りづらくなる



新鮮市場 きむら 太田本店 (商品棚)



新鮮市場 きむら 太田本店 (商品棚)



<良いところ>

- ・パンを買うところ(オススメ商品)は、車椅子の方からでも見やすい
- ・ポップが多く、お店の伝えたいことがわかりやすい

<改善点・注意点>

- ・車いすでの利用では棚が高く、手が届かないことや、商品が見えないこともみられた(特に上段や奥)
- ・車椅子目線では、ポップが多いことで中の商品が見えにくい
- ・取りやすい高さであっても車椅子の方からすると奥の商品が取りづらい



新鮮市場 きむら 太田本店 (お会計)



<良いところ>

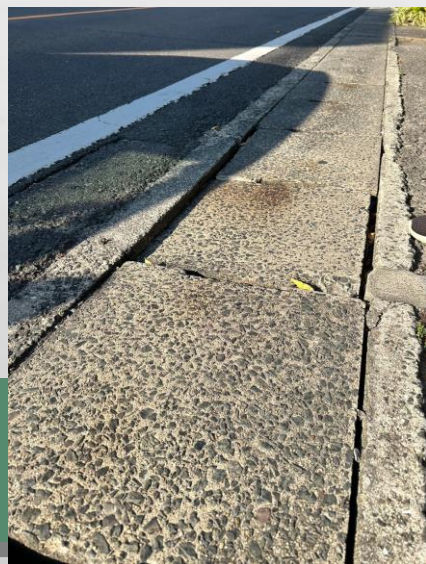
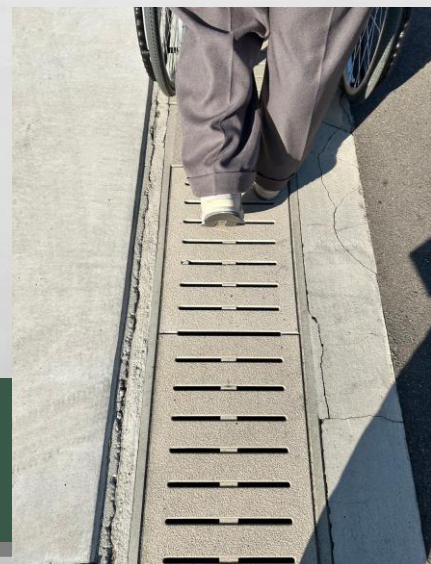
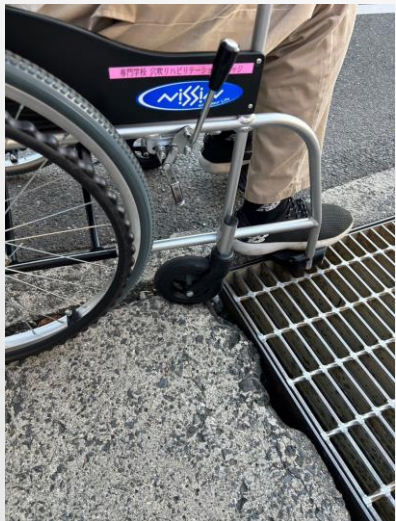
- ・レジの高さはカゴが置きやすく、店員さんにスムーズに渡せる高さ
- ・レジ前の幅が広く、車椅子の方でも通りやすい
- ・支払いのみセルフレジだが、お金を入れる高さや、レシートは取りやすい高さ
- ・購入した商品を詰める作業も、台の高さは作業しやすい高さ



<改善点・注意点>

- ・車いすでの利用ではセルフレジのタッチパネルが押しづらい
- ・カゴが大きいために車椅子の幅にはまらずバランスが取りにくいこともある

神社～新鮮市場 きむら 太田本店まで



〈良いところ〉

- ・勾配があまり無い
- ・グレーチングが沢山あり雨が降っても水たまりが出来にくい

〈改善点・注意点〉

- ・歩道が狭い
- ・溝が多くキャスターや杖がハマりやすい
- ・植物が出ていたり障害物があったりすると危険
- ・時間帯によって交通量が多い
- 自走経験が少ないと危険
- ・杖歩行は見守りがあったほうが安全



作業療法士としての視点

- ・障がい者用の駐車場やトイレがあり利用しやすい
- ・自走しながら買い物が出来るようなりハビリが必要
- ・店舗と鮮魚コーナーの入り口にあるマットが車いすの人にとってはタイヤの水が拭き取れるけれど杖歩行の人にとっては引っかけり、転倒の危険因子となる
 - 店舗内ではなく外から直接入るように指導することも必要
- ・鮮魚コーナーは水はけが良いようにグレーチングが多く、材質はコンクリートになっているが杖歩行の人にとっては滑りやすい
 - “滑りやすい”、“危険”などの注意喚起をする
- ・カートに杖をひっかけられるところがあると利用しやすい
- ・商品をとるためのリーチや把持力、ピンチ力が必要
- ・店舗内に休憩スペースがあると休息がとりやすい
- ・セルフレジがあるため、認知面において理解が必要となる
- ・入口に店内の配置場所などのマップがあると、車椅子や杖歩行の負担軽減や、初めて利用する人はわかりやすい
- ・トイレ前の勾配が急であるため、車椅子自走の場合は体幹のバランスや上肢筋力も必要となる

感想

- ・車椅子でいろんなところに行き、特に外へ出たときに坂道が困難であり狭い歩道
のときにグレーチングに詰まると1人では困難だと感じました。きむらさんに入店し
てみて、廊下では広い通路があり段差が無かったので楽でした。ただ、足元の高さ
にある商品は車椅子を利用する人からすると取りにくいところがあり、特に身長が
低くて車椅子に乗ると届かなくて商品がどこにあるのか分からないことがありまし
た。会計ではレジの高さは買い物カゴを置きやすい高さなので余裕感がありました。
お金やレシートも入れやすかったです。
- ・フィールド調査を通して車椅子を1人で行ける場所にはありましたが、1人では困難
な場所も多かったため、介助が必要であることが分かり大変だと思いました。車
椅子体験をしてたくさん学ぶことができたのでよかったです。

- ・実際にフィールド調査を行うと普段何気なく歩いている道であっても、杖を使っている方や車椅子の方にとっては難しい場所もあるということに気づくことができました。特に整備されていない道路やグレーチングなどで感じました。少しの段差や滑りやすい場所があるだけで1人での外出は難しくなり、その結果、生活の質の低下に繋がってしまうのだと感じました。対象者様が行きたい場所に行けるように安全なルートを提供し、楽しい生活を支援できる作業療法士になりたいと思いました。
- ・今まで何気なく行っていた場所でも、車椅子の方や杖の方の目線で見ると不便な事や危険箇所の注意点が見えてきて、少しの段差や、トイレの場所、駐車場、一つ一つがクリアにならないとその場所に行けない方もいることを知っておく必要があると思いました。どうすれば行きやすくなったり利用しやすくなるのかを考えることが作業療法士として大切な事だと思いました。この経験をした事で、日常生活でも今までとは違う目線で色々なことを見られると思います。

- ・今回のフィールド調査を通して、私たち健常者では気づかない細かなバリアがたくさんあり当事者の立場に立ち体験する事でわかることが沢山ありました。逆に健常者の私たちでもバリアになることは、障害者の方はもっとバリアになり日常生活を送ることが困難で質の良い生活を送れないことにも気づけました。車椅子の方のためにバリアフリーにすると、杖の方にとってバリアになったり双方がプラスになるバリアフリーを考えるのは大変だと思いました。そこをカバーできるよう作業療法士がサポートしていくべきだと学びました。
- ・フィールド調査を行ってみて、車椅子に乗っていると対向車や傾斜がとても怖かったり、杖の時はマットがひっかかり転倒しそうになったりと小さなことが危険に繋がること分かりました。スーパーでは棚の上の方の商品が取れなかったり、商品のポップでケースの中が見えなかったり実際に車椅子や杖の人しか感じる事が出来ないようなことを感じる事ができました。作業療法士になった時に一人一人の生活スタイルを考え、対象者様が1番生活しやすいようにアドバイスをしていこうと考えました。